事例 03

白老町

～北海道にある、元気まち～

ウポポイ内にある国立アイヌ民族博物館

町の素顔

人　口　16,394人（R2.9.30）
高齢化率　45.6%（R2.9.30）

胆振総合振興局管内のほぼ中央に位置し、東西に長い町域が特徴。夏涼しく、積雪も少ない。2020年民族共生象徴空間「ウポポイ」がオープン。

担当部署　白老町高齢者介護課

事例に関するワンポイント

- 介護保険サービス以外で一番利用したいサービスは「送迎サービス」
- 地域活動に参加してもよい高齢者は半数を上回る
- 「地域ふれあいサロン」…生活支援コーディネーターが中心となり立ち上げ及び継続支援を行っている

白老町が訪問型サービスDを開始した背景には、「移動困難者への支援をどうするか」という課題がありました。町内では4事業所で福祉有償運送による通院送迎を実施している他、その内の2事業所では、買い物や役場・金融機関での用事足し等の送迎支援も行っています。訪問Bについても、すでに地域の困りごと支援として有料ボランティアサービスが展開されていたので、併せて実施することになりました。

同サービスは実施団体の要件として法人格を必要とすることや、最小限のサービス内容から始めるべき等の意見を踏まえ、平成30年に開始されました。実施するにあたって設けられた「白老町住民主体による訪問型サービス事業実施要綱」には、「軽度な支援を必要とする高齢者（要支援1・2、事業対象者）を高齢者自身が担い手となり、地域の介護予防を促進すること」が目的として記され、生活援助を提供する団体を町が選考・登録し、運営に必要な経費に充てるための助成金を交付するものとなっています。

令和元年度、Bは約30名、Dは約90名の利用者がいますが、この要綱は令和2年4月に一部見直され、Bでは法人格がない団体でも担い手になれるようになったほか、B・Dともにサービス内容を拡充、社会情勢に合わせ、助成額の見直しも行っています。

町では、今後も利用者に合わせたサービスの見直しを図るとともに、実施団体の担い手育成なども検討していきたいと考えています。

訪問型サービスB・Dの主なサービス内容　※**太字**は令和2年度に追加されたサービス

訪問型サービスB	訪問型サービスD
掃除（居室内、トイレ、家庭ごみの分別・整理・**廃棄**）／洗濯、洗濯物の乾燥・取り入れ等／ベッドメイク／衣類の整理／一般的な調理の援助等／買い物・薬の受取／日常生活に必要な屋内外の軽作業（電球の交換、**ねずみや害虫の駆除**等）／家具の移動、家財処分／生活支援に伴って行われる相談支援／除雪、氷割り／入院前後の荷物の準備・片付け、入院中の洗濯・買い物・自宅からの物品運搬／**外出時の安全な環境を確保するための草刈り、草むしり**	● 通院等をする場合における送迎前後の付添い支援（通院、日常の買い物、役場や金融機関等での用事足し、**墓参り、冠婚葬祭、病院、施設などのお見舞い、町外の通院のためのバス停や駅までの移動、理美容、入浴施設** ● 住民主体の通いの場や一般介護予防事業における送迎（一般介護予防事業への送迎、高齢者大学への送迎、住民主体の地域サロン等への送迎、**趣味や信仰の集いへの送迎**
助成額：（1件につき）30分未満300円 30分以上60分未満500円	助成金：（1件につき）片道300円・往復500円 任意の自動車保険料1台につき22,000円

（特活）御用聞きわらび

所在地　白老郡白老町東町3丁目10-8
理事長　星　貢
スタッフ数　約30名
会員数　386名（利用会員343名、協力会員（正会員）40名、賛助会員3名）
会費　2千円
事業規模　14,734千円（令和元年度・収入ベース）
法人設立　平成24年
※団体の立ち上げと運営については、パネルディスカッション（P3-6）もご参照ください。

高齢者買い物支援（福祉有償運送）

（特活）御用聞きわらびは、日常生活に不便を感じている高齢者や障がい者の方へサービスを提供する会員制の互助組織で、星理事長が白老町役場を早期退職後、介護保険サービスの隙間を埋めるべく立ち上げました。

現在、運営面では大変厳しい状態ですが、収益性のある貨物軽自動車運送事業（引っ越し）や一般廃棄物処理業（ごみ処理）などの許認可事業を行うことで、福祉有償運送をはじめとする収益性の低い生活支援業務をカバーしています。平成30年度の訪問型サービス助成金収入は約26万円となっており、貴重な事業補助となっています。

事業収入の一例（令和元年度）

事業名	受益者	事業収入
生活支援サービス（草刈・草取り・除雪・窓ふき等）	高齢者等201名	2,749千円
福祉有償運送事業	高齢者等164名	3,235千円
引越し・不用品運搬処分事業	高齢者等　28名	2,233千円
その他集積事業（会員外草刈り・インフォセンター管理・公営住宅等夜間・休日管理など）		2,893千円

さらに、「このまちのために」と星さんと同じ志を持ち、お小遣い程度を稼げれば良いという会員が一体となって、山菜の“わらび”が根を張るようにサービスを支えており、訪問型サービスB・Dは、屋内外の軽作業や除雪、通院や買い物などの送迎など、特に独居高齢者にとっては必要不可欠なサービスとなっています。入院中のサービスでは、特に独居の方が入院された場合、スタッフが留守中のお宅に鍵を開けて入ることもあり、利用者との深い信頼関係が築かれていることが垣間見えます。また、掃除については、白老町でも都市部と同じようにいわゆるゴミ屋敷が相当数あり、作業に2日以上かかることも珍しくなくなっています。

高齢者宅お庭の草刈り

ニーズが高くても収益の上がらない生活支援を行う理由のひとつとして、星さんは「高齢者の生活に『選択肢が増える』から」と言います。例えば、入院を拒んでいた理由が飼っている猫や花の世話ができなくなるからといった場合、「サービスを提供することで、身の回りのことを心配することなく入院できるようになります」（星さん）。依頼がなくても要望を伺いに来る地域の“御用聞き”を目指す同法人ならではのニーズの掘り起こしで、利用者が喜ぶ声に加えて、遠方の町に居住するご子息から「うちの親もみてほしい」という声も多数届いています。